

令和 8年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

両城中学校区 校番 19 呉市立両城小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	・中間目標・短期目標ともに適切と考える。 ・適正な目標値による指標を設定している。個々の目標が具体的に取り組みやすい。
目標達成のための方策の適切さ	A	・「ICTの効果的な活用」という方策は適切だが、その指標として「タブレットが役立つと考える児童の割合」というのは、疑問を感じる。主観的な指標でなく、どの程度活用したのか客観的に判別できる指標にすべきでないかと考える。 ・本中学校区独自の方策「二川授業スタイル」を継続している。個々の方策が具体的に取り組みやすい。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	・数値に基づく適正な分析をしている。
今後の改善策(案)の適切さ	A	・学力、心、体、いずれも一人一人の子供に応じた柔軟な対応が求められることになると思う。 ・具体的な改善策を掲げ、手の届く距離で現実的な目標となっている。
その他		・先生たちの努力に敬意を表します。 ・先生はたいへんですね。色んなことに力を入れられている話を聞けてとても良かったです。日々、本当にお疲れ様です。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	・目標や目標達成のための方策は、具体的に適切であると評価をいただいた。今後も中間評価で示した改善策の取組について振り返りを適切に行い、毎月の分掌会での検討後、全職員に周知し、共通認識のもとPDCAサイクルで進めていく。 ・「ICTの効果的な活用」の指標について、より客観的な指標が必要ではないかとの意見をいただいた。児童の活用率など、実践の数値の指標について検討していく。 ・児童一人一人をしっかり見てその子に応じた取組ができるよう、情報交流を今まで同様丁寧に行っていく。分掌会での企画や、分掌をまたいだ企画など教職員の主体を重視し教職員のやりがいや児童の育ちにつながるようにしていく。
--------------------	---